

特産情報

2

特集 2011年春のきのこ種苗特集第1弾

春の原木栽培用と菌床きのこの種菌選び

きのこの新品種と推奨品種

編集部

〈新シリーズ〉特用林産資源を活用した“げんき産地・げんき企業”

竹林でのチップ化で輸送コスト軽減

竹資源の有効利用をめざす

群馬県渋川市 NPO法人竹取物語

平成21年度 特用林産物消費・流通支援事業（日特振）から

山菜加工（水煮パック）製品の実態調査①

年次別生産・輸入の動向と、地区別生産動向について

編集部

2011年きのこ産地訪問② 静岡、伊豆の地で続くエリンギ栽培

父、正昭さんの遺志を継ぎ

2代目経営者が奮闘中

静岡県伊豆の国市 増島農園 増島健太郎さん



〈新シリーズ〉 特用林産資源を活用した “げんき産地・げんき企業”

竹林の整備で里山の機能回復と雇用確保 竹林でのチップ化で 輸送コスト軽減 竹資源の有効利用をめざす

群馬県渋川市 NPO 法人 竹取物語



放置竹林が交通障害を引き起こしている降雪時の道路



緊急雇用対策事業の対象となった竹林の整備

山村の過疎化や高齢化が進む中で、山村の活性化や里山保全、地域資源の有効利用といった視点で、さまざまな特用林産資源に注目した新しい取り組みが行われている。本誌では今号から新シリーズとして「特用林産資源を活用した『げんき産地・げんき企業』」を随時紹介していく。

今号では、放置竹林や竹林の浸食で竹害とまで言われている竹林荒廃対策として、県の緊急雇用創出事業や地元渋川市の取り組みと連携して竹林整備に取り組み、竹チップやチップ竹炭の有効活用を目指している群馬県のNPO法人竹取物語の活動を紹介する。

緊急雇用創出事業などで竹林の整備を導入



作業は1チーム10名で2班に分けて活動



竹林でのチップ化で、輸送コストを大幅に軽減

群馬県渋川市を拠点に活動するNPO法人竹取物語（群馬県渋川市、高橋廣司理事長）は、これまでの森林整備ボランティア活動などで実績がある地元企業と、地元の竹資源の有効利用を目指している有志によって設立された。竹林の整備活動は、群馬県が国の緊急雇用創出基金事業に竹林整備事業と対象としたことや、

渋川市がふるさと雇用再生特別基金事業として取り組みを開始したことから実現した。事業目的は、歴史的に人里に近い里山に隣接する竹林が管理放棄されたことにより里山の景観が損なわれていることや、里山の持つ様々な機能が低下していること、さらに竹林の侵害による被害が拡大していることから、1次



人が踏み込めなくなった放置竹林、犯罪の予防面からも整備が求められた

的にはそれらの竹林を地元の雇用創出事業を活用しながら整備しつつ、2次的にはそれによって産出された竹チップの資源を有効的に活用しようというもの。

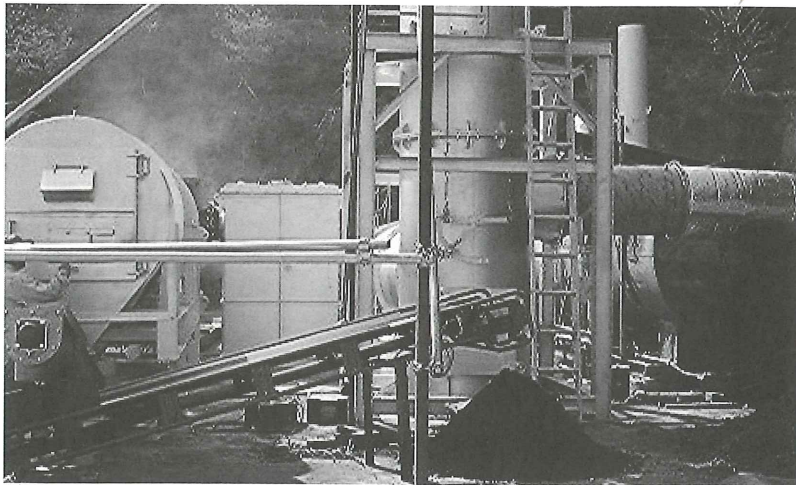
事業はまず、放置竹林の整備を求めている地域の行政や竹林の所有者、さらには防犯や交通の安全を所管する地元警察

など話し合いを行い、整備候補地を決めて、竹林伐採・粉碎時の騒音や埃に関する説明会を地元で行ってから実施する。

作業は、一般雇用8名に2名の専門職で1チームを構成し、このチームを2班に分けて、1箇所5名の人数で活動を行う。この取り組みの大きな特徴は、メーカーと共同で開発で改良した自走の木材残枝粉碎機を竹粉碎機として竹林まで運び、その場で粉碎す



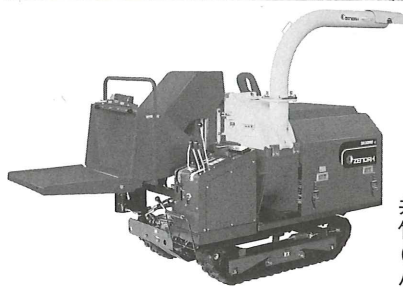
きれいに整備された竹林



ることよって運搬費を大幅に削減していること。竹資源は立竹10立方メートルでもチップにする2〜3立方メートルに減ってしまう弱点がありこれを古竹の堅さ、生竹の繊維の強さをカバーできる刃に改良することによって、竹林

現場近くでのチップ化が実現した。

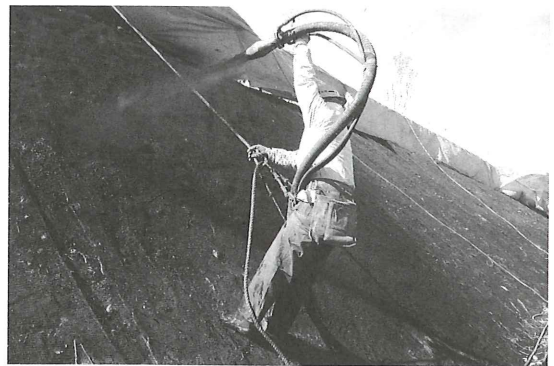
この5名のチームと1台の粉碎機を活用することで、1日6時間で約10立方分の竹林整備が可能となり、平成21年度は8月からのスタートで3月までに約800名の一



バイオナスの燃料にチップを活用、その炭化物を竹炭として活用

共同開発に成功した竹粉碎機
(写真提供：ハクスバーナ・ゼノア)

雇用と210名の専門職雇用を実現し、1816立方分の竹チップ生産を実現した。



チップは、法面工法の緑化資材に活用



地元の学校給食残渣と混合して堆肥化を実現

利用は法面緑化や竹炭、堆肥、土壌改良材などに

チップ化された竹資源は現在、地元企業でこの竹取物語に機械や木質バイオマス燃焼設備の使用を提供している企業に、道路の法面工法に用いられる緑化資材として活用されている。

納入単価は他の緑化資材に比べると2倍近いが、竹材を単に伐採して処理場まで運び、廃棄物として扱われた場

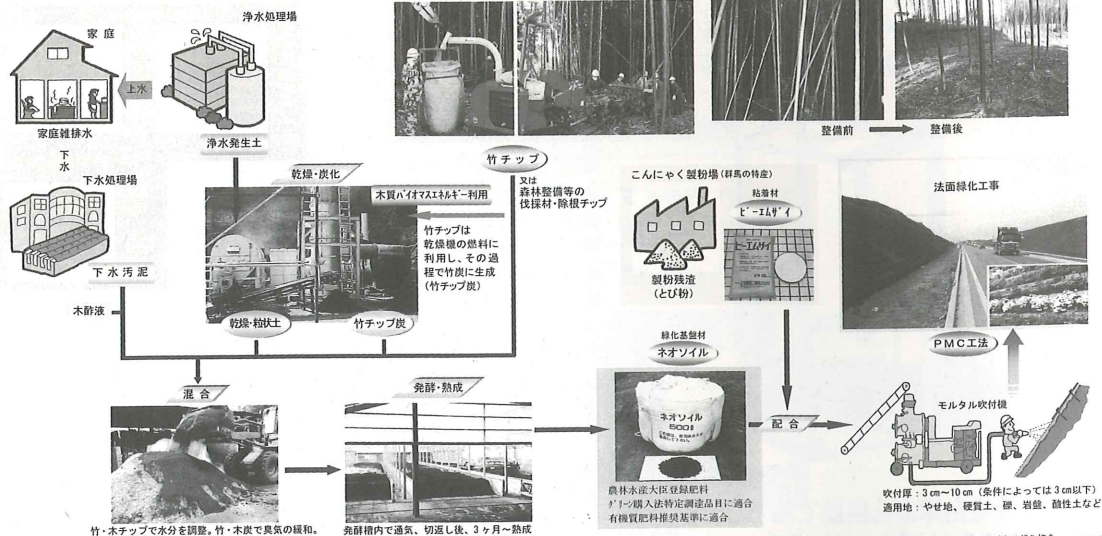
合の処理コストの半分でもこの竹チップの生産コストに反映できれば十分に採算がとれる。国の緊急雇用創出基金事業は平成22年度で終了することになっており、この竹林整備にかかるコストを誰がどのように負担するか議論と、竹チップの生産コストの削減さらに、より付加価値の高い有効利用への取り組みが今後

竹・木材の活用製品・技術の概要図

強化基材ネオソイル/法面緑化工PMC工法

企画：NPO法人竹取物語 TEL:0279/60-7723
http://taketorimonogatari.org

放置竹林の間伐整備



ネオソイル 園芸用培土・土壌改良材 竹チップ炭

公園の緑化に

ゴルフ場目土・基盤に

プランター・鉢植に

緑化に

発芽・生育段階

竹・本チップの利用 マルチチップ

チップは歩道のクッション材や植栽地の保通、促進や防草用のマルチ材に利用

炭木材の利用

木工 (ベンチなど)

間伐材の利用

間伐材を利用した木炭のリサイクル (PMC工法の基礎工として併用)

地元養豚農家の敷きワラ代わりに好評

地元有機農業グループでは水稻栽培に活用して成果を上げている

の課題となっている。

竹取物語では現在、竹チップとして畜産での敷きワラ代わりにすることや、竹チップの消臭能力を生かした養鶏・畜産への活用、さらには学校給食の調理残渣と組み合わせる堆肥化を進め、農産物への肥料としての利用を促進するとともに、バイオマスエネルギー・燃焼装置の燃料に利用することで、そこから排出される炭を竹炭として商品化することで農産や園芸の土壌改良材として活用できるように普及

及に努めている。地元の有機農業グループではこの竹チップ炭を活用して野菜、花、きのこ栽培などで活用して上々の結果を得ている。木炭の土壌改良材として効果は様々な取り組みや試験結果からその効果が認められているが、他の土壌改良材に比べて単価が高いことが利用普及のネックになっている。バイオマス燃焼機器の産廃として産出される竹チップ炭を使用できれば低価格の土壌改良剤が提供できるとの期待が高まっている。

31